

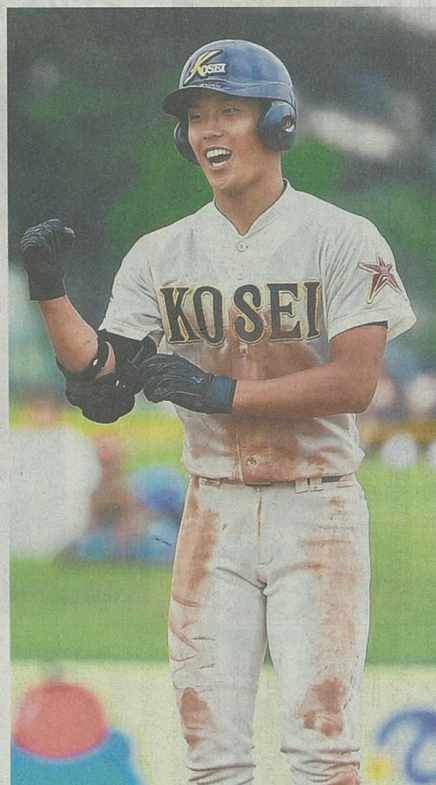
光星・武岡主将 不調乗り越え打線けん引

「坂本2世」3度目甲子園へ

3季連続の甲子園出場を決めた八学光星。走攻守そろった大型遊撃手として注目を浴びる武岡龍世主将（3年）は、同校出身のプロ野球選手・坂本勇人選手（巨人）2世とも呼ばれる逸材。この春からどん底の不調に陥っていたが、ここの一番、家族の支えで調子を取り戻し、聖愛との決勝では、猛打の口火を切る活躍でチームを優勝に導いた。念願の全国制覇、そして憧れの坂本選手に少しでも近づくと。熱い思いで、自身3度目の甲子園に挑む。（大久保拓地）

【本記1面】

プロの夢 家族の絆に



決勝の1回表、八学光星は打者一巡の猛攻を見せた。主将武岡選手は2打席連続安打を打ち二塁上でガッツポーズ

春の県大会初戦。今春のセンバツに出場した光星は、ライバル・青森山田に思わぬ敗戦を喫した。以来、チームの士気は下がり、自身もスランプに陥った。徳島県出身の武岡選手は中学卒業後、坂本選手と同じ高校で野球がしたいと光星の門をたたいた。入部後、すぐに頭角を現し、精鋭ぞろいのチームで1年生からベンチ入りし、春の県大会に出場。スカウトの注目も集めるようになった。昨夏の甲子園出場後には、主将の重責を担うことになっ



八学光星の優勝が決まり、喜びを爆発させる武岡選手の父・克明さんと母・みどりさん

た。だが、その重圧と、結果が出ない焦りがプレーに微妙な影を落とした。今春以降、徳島の父・克明さん（49）と母・みどりさん（49）

家族の励ましを受けて臨んだ今大会。開幕後もなかなか調子は上がらなかったが、主将としても、光星のレギュラー選手としても折れるわけにはいかなかった。兄や父、チームメイトから打撃フォームの細かなアドバイスを受け、こつこつと修正を重ねた。坂本選手のようなプロ野球選手になる。夢が心と体を動かした。そして3回戦、因縁の青森山田戦。積み重ねた生き、2安打1打点の活躍。

にほぼ毎日相談の連絡を入れた。「野球選手としての素質は抜群だが精神的にも弱い面がある」と語る兄・大聖さん（21）は八戸学院大3年。住む八戸市の寮で、号泣することもあった。そんな姿に、両親は「何を弱気になっているんだ」と活を入れた。家族の励ましを受けて臨んだ今大会。開幕後もなかなか調子は上がらなかったが、主将としても、光星のレギュラー選手としても折れるわけにはいかなかった。兄や父、チームメイトから打撃フォームの細かなアドバイスを受け、こつこつと修正を重ねた。坂本選手のようなプロ野球選手になる。夢が心と体を動かした。そして3回戦、因縁の青森山田戦。積み重ねた生き、2安打1打点の活躍。

雪辱を果たすと、その後の試合でも集中力が戻ってきた。坂本選手と高校時代にプレーした津田勇志副部長（29）は「光星の主将は大変だが、彼はその責任からもプロ野球選手になりたいという夢からも逃げていない」と評価する。「自分には坂本選手のようなスター性がないのは分かっている。それでも、この大会を通して少しずつ近づいている実感がある」。武岡主将は、まめだらけの手を握りしめた。